



第44回 高神村外川漁港の村落景観
「下総外川漁港図」(静嘉堂文庫所蔵、一部、年代不詳)によりトレス。

紀伊・房総 くろしお物語

◇26◇

紀州人が銚子の地に代初期の1630年ごろ。当時の銚子は高崎集団として旅綱するようになつたのは江戸時藩の所領地として確固

たる地位を保ち、家康

の肝煎りで行われた利

根川の改修で江戸と下

総・常陸との物流拠点

となつた。また、利根

川からの有機質によ

り、黒潮と親潮が交わ

るため、酵母の生産が

しやすいため、醤油醸造地

としても注目されつ

つて銚子沖はイワシの大漁場となつていた。

も費やして情報と資金

を蓄えた。

一方、紀州は秀吉の

大漁場にしようとした

大漁場に運んだ。

お陰で海

まで運んだ。

岸から筏に乗せて工事

現場へ順調に運べた。

先月行われた京都の祇

園祭の山鉾巡行でも、

彼は大工、土木工事

の設計と施工指揮の役

を買って出た「伊兵衛」

と出会い、夢を実現さ

せたため、1656(明

暦2)年、資材や人を

乗せた大船団を組んで

銚子を目指した。銚子

の領主松平外記に外川

漁港と漁業基地外川街

で、農家を継げない男

たちは旅綱を目指して

いた。その中に、私財

をなげうつて銚子の外

川に漁港を築き、その

漁民と商人が住む町を

築こうという偉人が現

れた。その人が崎山治

郎右衛門である。

彼は八幡太郎(源義

家の流れをくむ土族

であつたが、紀州征伐

の飯沼村に住み、伊兵

衛の描いた設計図を基

に外川漁港第一期本浦

工事に着手した。当时

45歳だった。

築港工事で一番の難

題は堤防のための石の

運搬である。石は工事

現場から少し離れた日

和山から運び出そうと

岩できちつと固められ

た岸壁が一部残され、

引場だったところに砂

岩を敷き、その上に

青竹を敷き、役賣っていた。崎山治

郎右衛門の事業の続き

は次回をお楽しみに。

外川港を築いた崎山治郎右衛門

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

恩返しにイワシ漁の町へ

築こうという偉人が現れた。その人が崎山治郎右衛門である。彼は八幡太郎(源義家の流れをくむ土族)であったが、紀州征伐であつたが、紀州征伐では、広村の農漁民に敗れて広村の農漁民となり漁業を営んでいた。あるとき海難に遭った。下総国海上郡飯沼村や高神村(両村とも現在の千葉県銚子市)の人々に助けられた。その恩返しから、銚子の地をイワシ漁業の一

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。當時は45歳だった。築港工事で一番の難題は堤防のための石の運搬である。石は工事現場から少し離れた日和山から運び出そうと岩を敷き、その上に砂岩を敷き、岩を固められた岸壁が一部残され、引場だったところに砂岩を敷き、その上に青竹を敷き、役賣していた。崎山治郎右衛門は決意。考えた末、石を運ぶ道に切石を乗せたソリ

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。當時は45歳だった。築港工事で一番の難題は堤防のための石の運搬である。石は工事現場から少し離れた日和山から運び出そうと岩を敷き、その上に砂岩を敷き、岩を固められた岸壁が一部残され、引場だったところに砂岩を敷き、その上に青竹を敷き、役賣していた。崎山治郎右衛門は決意。考えた末、石を運ぶ道に切石を乗せたソリ

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。當時は45歳だった。築港工事で一番の難題は堤防のための石の運搬である。石は工事現場から少し離れた日和山から運び出そうと岩を敷き、その上に砂岩を敷き、岩を固められた岸壁が一部残され、引場だったところに砂岩を敷き、その上に青竹を敷き、役賣していた。崎山治郎右衛門は決意。考えた末、石を運ぶ道に切石を乗せたソリ

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。當時は45歳だった。築港工事で一番の難題は堤防のための石の運搬である。石は工事現場から少し離れた日和山から運び出そうと岩を敷き、その上に砂岩を敷き、岩を固められた岸壁が一部残され、引場だったところに砂岩を敷き、その上に青竹を敷き、役賣していた。崎山治郎右衛門は決意。考えた末、石を運ぶ道に切石を乗せたソリ

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。當時は45歳だった。築港工事で一番の難題は堤防のための石の運搬である。石は工事現場から少し離れた日和山から運び出そうと岩を敷き、その上に砂岩を敷き、岩を固められた岸壁が一部残され、引場だったところに砂岩を敷き、その上に青竹を敷き、役賣していた。崎山治郎右衛門は決意。考えた末、石を運ぶ道に切石を乗せたソリ

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。當時は45歳だった。築港工事で一番の難題は堤防のための石の運搬である。石は工事現場から少し離れた日和山から運び出そうと岩を敷き、その上に砂岩を敷き、岩を固められた岸壁が一部残され、引場だったところに砂岩を敷き、その上に青竹を敷き、役賣していた。崎山治郎右衛門は決意。考えた末、石を運ぶ道に切石を乗せたソリ

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。當時は45歳だった。築港工事で一番の難題は堤防のための石の運搬である。石は工事現場から少し離れた日和山から運び出そうと岩を敷き、その上に砂岩を敷き、岩を固められた岸壁が一部残され、引場だったところに砂岩を敷き、その上に青竹を敷き、役賣していた。崎山治郎右衛門は決意。考えた末、石を運ぶ道に切石を乗せたソリ

の飯沼村に住み、伊兵衛の描いた設計図を基に外川漁港第一期本浦工事に着手した。當時は45歳だった。築港工事で一番の難題は堤防のための石の運搬である。石は工事現場から少し離れた日和山から運び出そうと岩を敷き、その上に砂岩を敷き、岩を固められた岸壁が一部残され、引場だったところに砂岩を敷き、その上に青竹を敷き、役賣していた。崎山治郎右衛門は決意。考えた末、石を運ぶ道に切石を乗せたソリ